

(案)

※第4次計画からの更新・修正箇所 赤字

横須賀市社会福祉協議会 第5次地域福祉活動計画

～ "よこすかの福祉をハッピーに" するための活動マニュアル～

〈平成30年4月～平成36年3月〉



わたしがつくる みんなでつくる
一人ひとりが住みやすいまち 横須賀

地域福祉活動計画は、市区町村社会福祉協議会が策定する計画で、地域社会を構成するさまざまな分野の組織、団体、個人が、地域社会の一員として、自分の地域について考え、それぞれが主体的に、そして協力し合いながらみんなで住みよい地域づくりをしていくための行動計画です。

社会福祉法人横須賀市社会福祉協議会

はじめに(第5次地域福祉活動計画の策定にあたって) (未)

☆活動計画書の活用方法☆

【自分の地域に合った取り組み目標を選ぼう】

横須賀の各地域が発展してきた歴史や地理・環境などは、一様ではありません。昔からお互いの顔の見えやすい地域もあれば、近年できた新興住宅地で、これから住民同士のつながりを築いていく地域もあります。

このため、課題や取り組み目標が、必ずしも一つひとつの地域の実情に合っているとは限りません。したがって、この活動計画に掲げていることを各地域で実践していくためには、自分の地域に合った取り組み課題や取り組み目標を選んだり、取り組む方法や活動の対象を変えてみるなどの工夫が必要です。

【取り組む原点を振り返ってみよう】

地域福祉活動計画では、課題を「生活課題」と「地域福祉活動課題」の2つに分けています。「生活課題」は、住民一人ひとりが取り組むこと、「地域福祉活動課題」は、すでに地域福祉活動に参加している人・団体が取り組むこととして、それぞれを整理しています。

そして、計画体系図において課題から目標までが一つの流れになっています。取り組みを始める時、取り組みの途中で疑問を感じた時などに、「なぜやるのか」、取り組みの原点である課題を振り返ることによって、取り組みの方向性や動機を確認してください。

「いますぐあなたのまちでも！活動ヒント集」に注目！！

各取り組み目標のページに掲載している「いますぐあなたのまちでも！活動ヒント集」は、市内地区社協等との懇談会から出た声や、地域福祉活動計画推進委員が日ごろの活動や事業をとおして感じている課題・問題点をまとめた「委員レポート」、委員会でのディスカッションで出された市内での取り組み事例や工夫、地域で福祉活動をしている人たちの思いなどを取り上げたものです。

「自分には何ができるかな？」「何から始めようかな？」と思ったときにぜひ参考にしてください。

横須賀市社会福祉協議会 第5次地域福祉活動計画

(計画期間:平成30年4月～平成36年3月)

第5次地域福祉活動計画(以下「活動計画」)は、市内18地区社会福祉協議会での地区懇談会や、さまざまな機会でもいただいたご提案、ご意見をもとに、各地域の現状や課題を把握、整理しています。

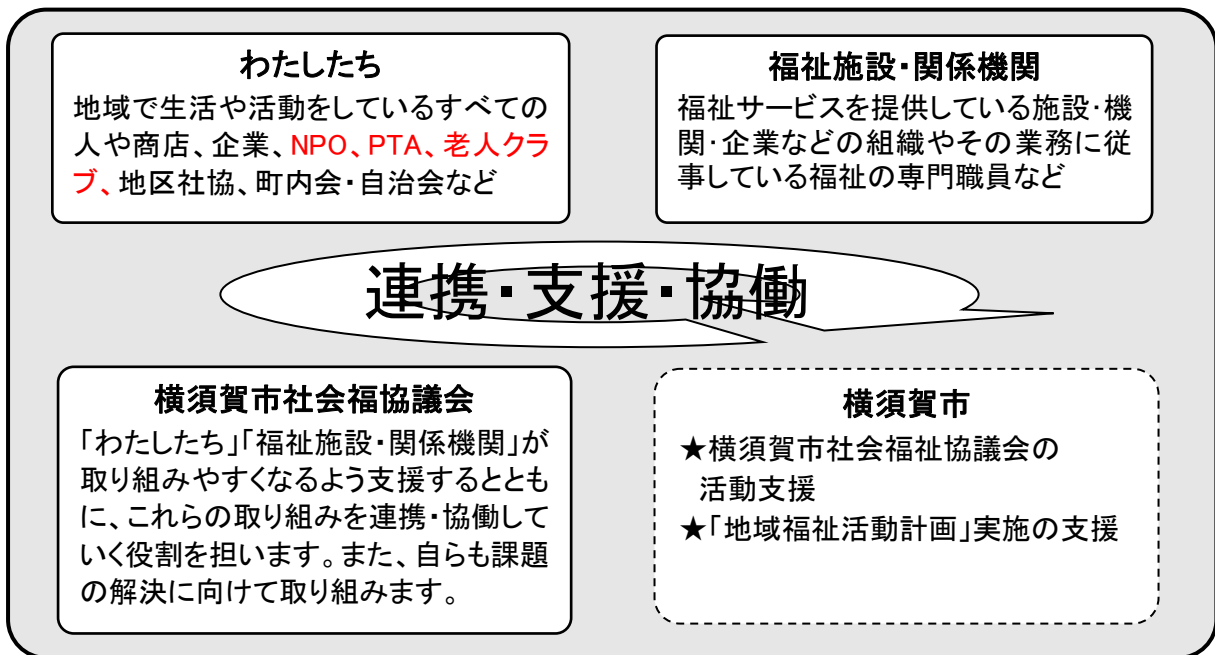
そして各課題を、改善、解決していくために必要な取り組みについて、目標を掲げながら「地域のみんな、で取り組みたいことを提案した地域福祉活動マニュアルとも言えるものです。」

1. 取り組み主体と概要

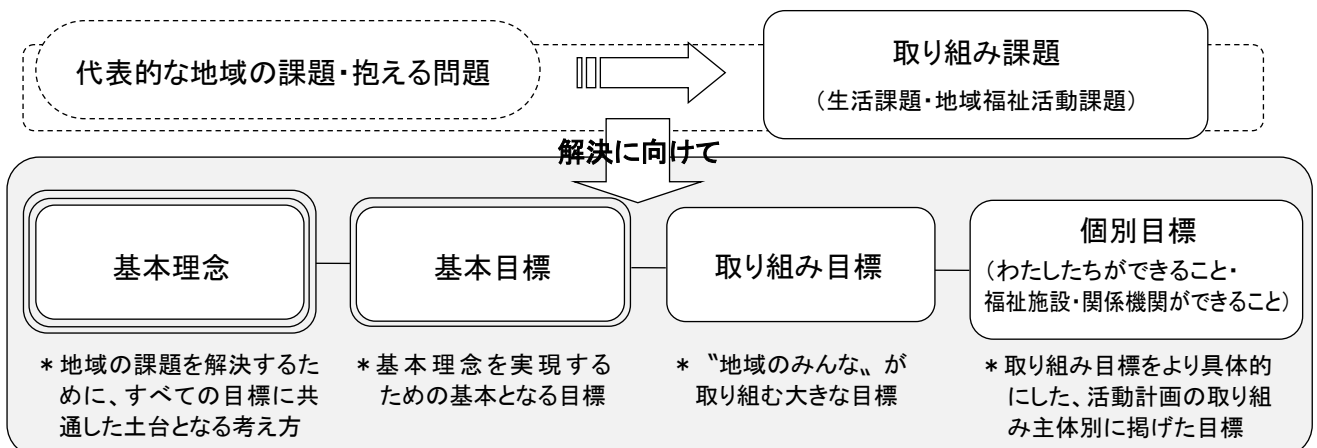
★活動計画の取り組み主体

この活動計画に取り組む「地域のみんな、とは、住民だけでなく、地域の商店、企業、学校、病院、福祉施設・団体など、さまざまな分野を含む地域全体のことを指しています。

活動計画では、「地域のみんな、を「わたしたち」としていますが、特に福祉に関する専門性をもち、地域の中で住民等とは異なる役割を果たすことが期待される「福祉施設・関係機関」については、「わたしたち」から抜き出して、もう一つの取り組み主体としています。



★活動計画の概要



2. 基本理念と基本目標

〈基本理念〉

わたしがつくる みんなでつくる
一人ひとりが “住みやすい、まち 横須賀

「わたしがつくる」

横須賀に関係のあるすべての人が、主体となって地域づくりをしていこうという考え方です。一部の特定の人たちだけの活動ではなく、これからはすべての人が関わるのが大切です。

「みんなでつくる」

一人でできないときには、みんなの支えに助けられること、また、一人で解決するのではなく、みんなで連携・協働していくこと、活動の輪を広げていくことが大切という考え方です。

「一人ひとりが “住みやすい、”

社会や地域から排除されがちな少数の人たちの存在も意識し、誰にとっても “住みやすい、まち横須賀をつかっていこうという考え方です。

実現に向けて

〈基本目標〉

①人と人とのつながりを大切にしよう

地域の中では、周囲の理解や支援を必要とする人がいます。また、あふれる情報の中から必要な情報を見つけたり、うまく活用することが難しく、問題を抱えたまま生活している人がいます。

誰もがその人らしく暮らしていくためには、近隣住民をはじめ周囲の人たちとのつながりや、地域の中で、理解や支援などさまざまな形の支え合いが必要です。それを実現していくためには、人と人とのつながりが基盤となります。

②住民一人ひとりが参加してわがまちの地域福祉を進めよう

地域福祉を進めていくためには、一人でも多くの人の参加が必要ですが、活動の内容は、各々の地域の状況、抱える課題によって異なります。

そのため、地域での暮らしはさまざまであっても、自分たちのまちに対する愛着心＝ “わがまち、” という気持ちを持ち、住民みんなが暮らしやすいまちとなるよう地域福祉を進めていくことが理想です。

3. 体系図

横須賀の地域の課題				基本理念	基本目標	取り組み目標	
<p>〈キーワード〉 〈取り組み課題〉 〈代表的な地域の現状・抱える問題〉</p>							
生活課題	1	生活	支え合う仕組みづくりと実践	普段の暮らしで支援が必要な人を支える仕組みが不足している (生活スタイル・価値観の多様化) (山・坂・階段の存在)	わたしがつくる みんなでつくる 一人ひとりが「住みやすい」まち 横須賀	人と人とのつながりを大切にしよう	誰もが自分らしく暮らしていくことができるように、多様な支え合いを形にしていこう
	2	交流	人と人とのつながりや交流の大切さと相互理解	つながり・交流のない人、薄い人の中には、望んでいるにもかかわらず、身体状況や生活環境などによって孤立感を抱いている人がいる			ご近所同士仲良くして地域の力を高めよう
	3	理解	病気や障害などについての理解と支援	病気や障害のことなどが理解されていないために生じる誤解や偏見もある			地域にはさまざまな人たちがいることを理解し、誤解・偏見のない地域づくりに努めていこう
	4	情報	必要な情報を得るための工夫と活用	情報が必要な人に伝わっていない			自分にあった情報を得て役立てよう
地域福祉活動課題	5	地域活動	一人ひとりの参加による地域福祉の推進	地域福祉活動に携わる人や活動内容が固定・減少している	住民一人ひとりが地域福祉を進めよう	身近な地域の福祉活動を進めていこう	
	6	交流	さまざまな支援活動・方法の模索	自分のことを知られたくない人、自分に関する情報を提供されたくない人からのSOSが気づきにくい		さまざまな人たちを支援できる活動を進めていこう	
	7	連携	地域福祉や関連領域関係者・団体の協働、連携	地域の中では、地域福祉活動に携わる人・団体が連携しなければ解決が難しいほど、複雑・深刻な課題を抱える人も生活している		さまざまな機関・団体・個人が協働して、大きな力を生み出していこう	

★体系図の特徴

地域福祉活動計画では、課題を「生活課題」と「地域福祉活動課題」の2つに分けています。

「生活課題」は、住民一人ひとりが取り組むこと、「地域福祉活動課題」は、すでに地域福祉活動に参加している人・団体が取り組むこととして、それぞれを整理しています。

そして、計画体系図において課題から目標までが一つの流れになっていることが、地域福祉活動計画の一番の特徴です。

(体系図横軸の流れ)

① 地域での生活・暮らし



生活課題〈例:孤独死〉 → (取り組み目標)

② 地域福祉活動(地域での生活課題を解決する)〈例:いきいきサロン〉



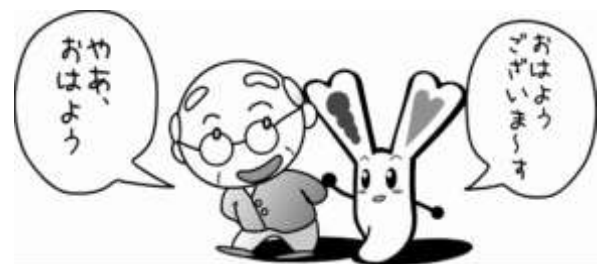
地域福祉活動課題(担い手として地域福祉活動をする中での課題・問題)
〈例:参加者不足・引きこもり〉 → (取り組み目標)

③ 地域福祉活動の仕組み・仕掛け

(地域福祉活動の課題を解決する)〈例:広報の工夫・迎えに行く〉



④ 市内で共有化(課題解決・改善の取り組み(②・③)) (活動ヒント)



※社協(しゃきょう) = 社会福祉協議会の略

4. 取り組み課題・取り組み目標



生活課題 / 生活

〈取り組み課題〉 支え合う仕組みづくりと実践

～ 代表的な地域の現状・抱える課題 ～

普段の暮らしで支援が必要な人を支える仕組みが不足している

(生活) こんな声がありました！



- 在宅福祉サービスを利用して、自宅での生活を続けたいという高齢者が多い。
- 男性介護者の中には就労している人も多く、また「介護」の前に「家事」というハードルがある。
- 山・坂・階段があり、買い物が不便。 ●高齢になり、体力低下や、病気をした時の生活が不安。
- 宅配サービスはマークシートやパソコンでの注文が煩わしい。商品を手にとって買いたい。
- 通勤に不便な地域では、若い世代が離れてしまうことが多い。 ●近所に空き家が増えた。
- 子育てに不安や悩みを抱えていたり、虐待に悩む母親もいる。 ●子どもの不登校が多い。
- 両親共働きが増え、夕食が遅くなり、夜遅くまで起きていて、朝食を食べない子どもが増えた。
- 障害者福祉では、両親など年齢が上の世代が担うことが多いため、介護・介助する人が亡くなった後の生活が大きな課題となる。

課題キーワード





〈取り組み目標〉

誰もが自分らしく暮らしていくことができるように、多様な支え合いを形にしていこう

誰もが、住み慣れた地域や家で、家族と一緒にあるいは自立して、いつまでも自分らしく暮らしたいと願うのは、ごく自然なことです。

わたしたち一人ひとりが、悩みや不安を抱え込まずに声を出すこと、また、困っている人に気づいたら、自分のできることで応援することが解決につながっていきます。

〈個別目標〉



わたしたちができること

- ① 悩みや不安をなるべく一人で抱え込まないで、相談できる人をつくろう
- ② 悩みや不安を抱えている人がいたら、自分のできることで応援していこう

市社協の取り組み方向

☆わたしたちの暮らしの中でうまれる悩みや不安、困りごとに気づき合える仕組みづくり

☆わたしたちの暮らしの中でうまれる悩みや不安、困りごとを解決するために支え合う仕組みづくり

福祉施設・関係機関ができること

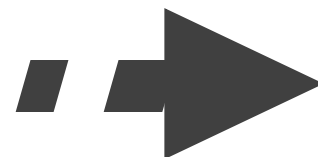
- ① さまざまな援助が必要な人たちについて、福祉施設・関係機関と地域が支え合う仕組みを考えていこう
- ② すぐに解決しづらい課題に対しても、目を向け続けていこう



いますぐあなたのまちでも！ 活動ヒント集

- 宅配サービスをしてくれる店舗情報を、地域の広報紙に掲載し、好評だった。
- 買い物が不便な地域で、町内会で場所を用意し、巡回移動販売車を呼んでいる。
- 「階段のおかげ健康でいられた。感謝している」と、愛着のある地域で、ゆっくり、前向きに生活をしている高齢者がいる。山・坂・階段等の地域特性も健康づくりに生かしている。
- 集合住宅等で、高齢者のいる世帯のゴミを同じ階の他の住民が持っていってくれる仕組みがある。
- 婚活パーティや、学童保育、学習指導等、若い世代が定住したくなるまちづくりを地域で始めている。
- 長年介護をしている自らの体験を語ることで、新米介護者のお手本になっている男性介護者がいる。
- 親が担い手となっていた子ども会の活動を、「地域の子どもは地域で育てる」とし、町内会・自治会等が担い、維持している地域が増えている。





〈取り組み課題〉 人と人とのつながりや交流の大切さと相互理解

～ 代表的な地域の現状・抱える課題 ～

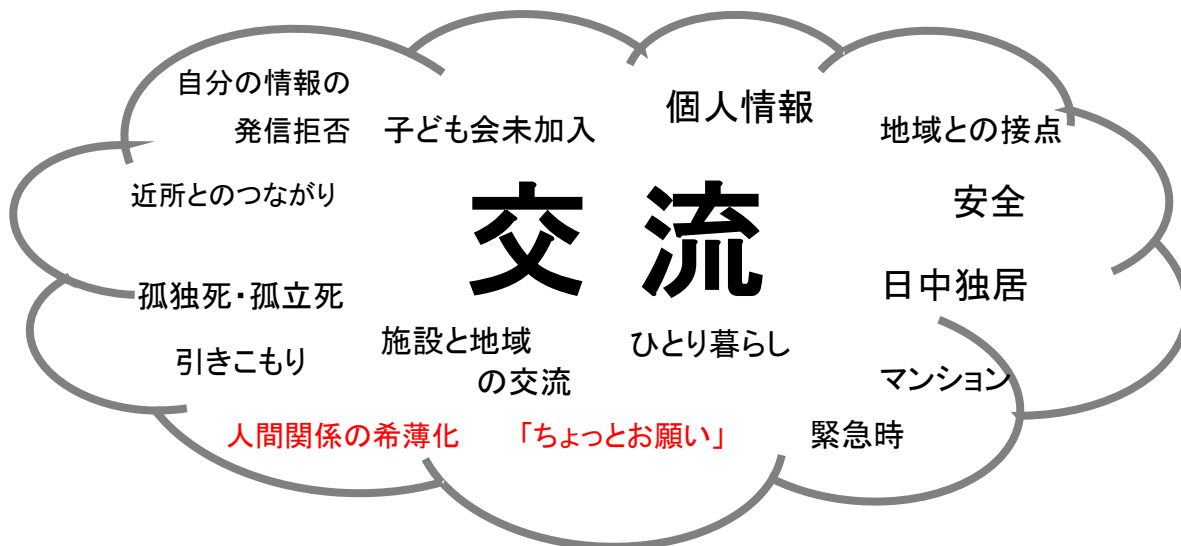
つながり・交流のない人、薄い人の中には、望んでいるにもかかわらず、
身体状況や生活環境などによって孤立感を抱いている人がいる

(交流) こんな声がありました！



- 昔のような隣近所の付き合いがなくなってきた。地域と交流がない高齢者世帯が多い。
- 一人暮らし高齢者や、高齢者のみの世帯が増えており、緊急時の不安がある。
- 近隣と馴染むのが嫌でマンションに移り住んでくる人が多い。
- 昔から住んでいて周囲にも親戚がいるという人は、他からの支援は受けたがらないかもしれない。
逆に新しく住み始めた住民は SOS を発したくても声を出せずにいるのかもしれない。
- 昔は近所の子ども同士の遊びや関係があったが、今は公園に行っても誰もいないことがある。
子どもが少なくなり、子どもをとおした親同士、家族同士、近所同士の関係も築きにくくなっている。
- 子ども会や PTA への未加入など、地域とのつながりを持たない家庭の孤立化がある。
- 在住外国人が多国籍化しており、日本語だけでなく、英語も通じない人がいる。
- 福祉施設の事業内容や目的などが地域に知られていない。理解されていない。

課題キーワード





〈取り組み目標〉

ご近所同士仲良くして地域の力を高めよう

物や情報で溢れた現代では、誰と関わることなく生活が出来、また、生活スタイルや価値観の多様化によって、隣近所とのあいさつや付き合い、町内会・自治会活動などを必要が無いと感じる人も増えています。しかし、核家族化が進む中、住み慣れたまちで、自分らしく安心して暮らすためには、「遠い親戚より、近くの他人」が重要で、人と人とのつながり・地域との交流が、生活のカギになります。

〈個別目標〉



わたしたちができること

- ① あいさつなど気負わずできることをとおして、顔の見える関係やお互いの存在を感じ合うことのできる地域を目指していこう
- ② 地域の行事に声をかけあって参加しよう
- ③ 福祉活動のほか、自分の特技や趣味活動を地域に活かそう

市社協の取り組み方向

- ☆わたしたちが暮らす地域に関心をもてるようなきっかけづくり
- ☆わたしたちが顔の見える関係やお互いの存在を感じ合うことのできる地域づくり

福祉施設・関係機関ができること

- ① 地域と一体となって、地域の行事などに積極的に参加していこう
- ② 福祉施設・関係機関を地域住民へ開放して、役割や機能、専門性について知ってもらおう



いますぐあなたのまちでも！ 活動ヒント集

○自宅で、熱中症(病気等)で倒れ、意識を失っていたところを、異変に気づいた近所の人がいち早く発見し、救急車を呼び、一命をとりとめた。

○一人暮らしの高齢の親に、遠方の家族が、いくら電話をかけても出ないので心配になり、隣の家に安否確認を依頼した。

○町内会・自治会では住民が参加する行事を多く開催して、コミュニケーションをとる努力をしている。役員は、住民に声かけやあいさつをするよう心がけて、頼みやすい雰囲気をつくっている。

○人と人との関係を築くには、まず、あいさつをすることである。会話は、頭の回転や体に大変良い。



〈取り組み課題〉

病気や障害などについての理解と支援

～ 代表的な地域の現状・抱える課題 ～

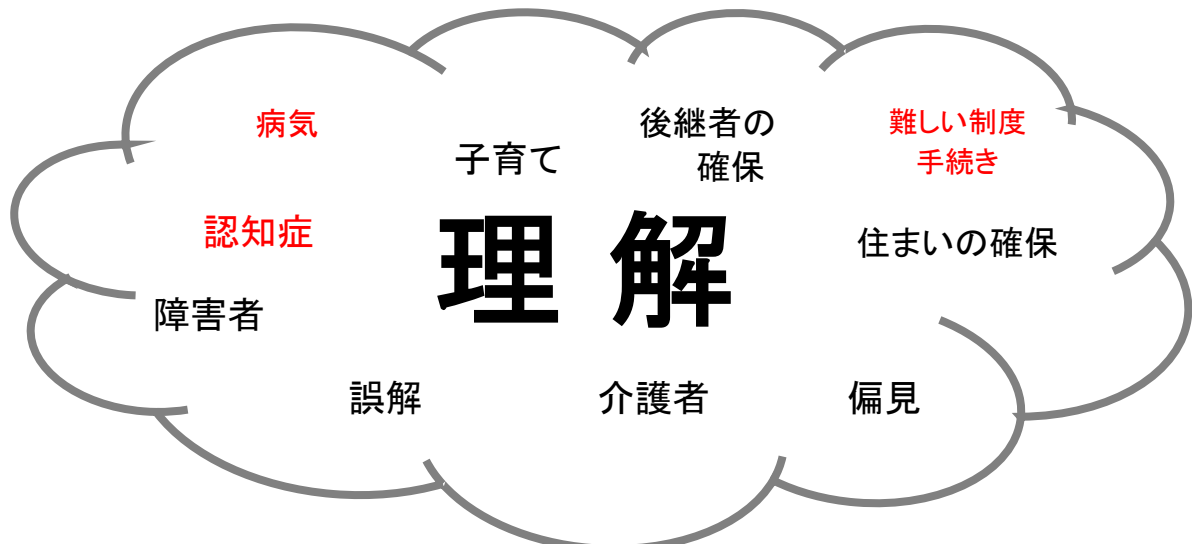
病気や障害のことなどが理解されていないために生じる誤解や偏見もある

(理解) こんな声がありました！



- 普段、道を歩いている様子を見るだけでは、認知症や、精神障害のある人かどうかはわからない。
- 軽い認知症高齢者の事実と違う、混乱した話を、否定していいのか、肯定していいのかわからない。
- 精神障害者の多くは、周囲からの偏見と、自分自身が病気・障害を受け入れることができないことの両方で苦しんでおり、適切に助けを求めることが難しく、サポート体制を作りにくくしている。
- 障害者は、不動産業者、大家、保証会社(保証人)の理解・協力が得られず、住まいの確保が難しいことが多い。
- 犯罪や非行は地域社会内で発生し、罪を償った人は地域社会に戻って、その一員として生きていくことになる。罪を償った人の更生は、地域社会内で完結するものであることを理解してほしい。
- 近隣の福祉施設の入所者が、そこで、どんな生活をしているかわからない。

課題キーワード





〈取り組み目標〉

地域にはさまざまな人たちがいることを理解し、
誤解・偏見のない地域づくりに努めていこう

地域の中では、さまざまな人たちが生活しています。病気や障害のある人、介護などの支援の必要な人について、偏った情報や思い込みで、誤解・偏見を持つことがあります。誰もが住み慣れた地域の中で、自分らしく安心して暮らしていくために、一人ひとり、あるいは隣近所同士が病気や障害等について正しく理解し、どのような配慮や支援が必要なのか、考えていくことが大切です。

〈個別目標〉



わたしたちができること

- ① 地域にはさまざまな病気や障害、子育て、介護などの悩みをもつ人たちがいることを理解しよう
- ② さまざまな病気や障害、子育て、介護などの悩みをもつ人たちを、自分のできることによって応援していこう

市社協の取り組み方向

☆わたしたちが暮らす地域にある理解・対応されにくい課題への理解の促進と支援の検討

福祉施設・関係機関ができること

- ① さまざまな病気や障害、子育て、介護などの悩みをもつ人たちを、専門性や機能を活かして支援しよう
- ② さまざまな病気や障害の内容や、子育て、介護などの悩みによって、周囲の理解や支援が必要な人たちについて、正しく理解できるよう伝えていこう



いますぐあなたのまちでも！ 活動ヒント集

○障害者週間キャンペーンのような障害を正しく理解してもらうことが目的の催しでは、障害者自身が参加して、生の声を伝えることで、学んだり、伝わるものがあると思う。

○軽い物忘れや、記憶の混乱、尿失禁の話など、同年代の共通の話題として、明るく話せる場がある。

○さまざまな領域、さまざまな人たちが担う＝コラボレーションによって、病気や障害、子育て、介護などの悩みをもつ人たちの、生活のしづらさや悩みが軽減し、その人らしい暮らしの可能性がひろがる。

○地域のさりげない見守りや「頑張っていますね」などの応援の声掛けも、介護者支援になる。



〈取り組み課題〉

必要な情報を得るための工夫と活用

～ 代表的な地域の現状・抱える課題 ～

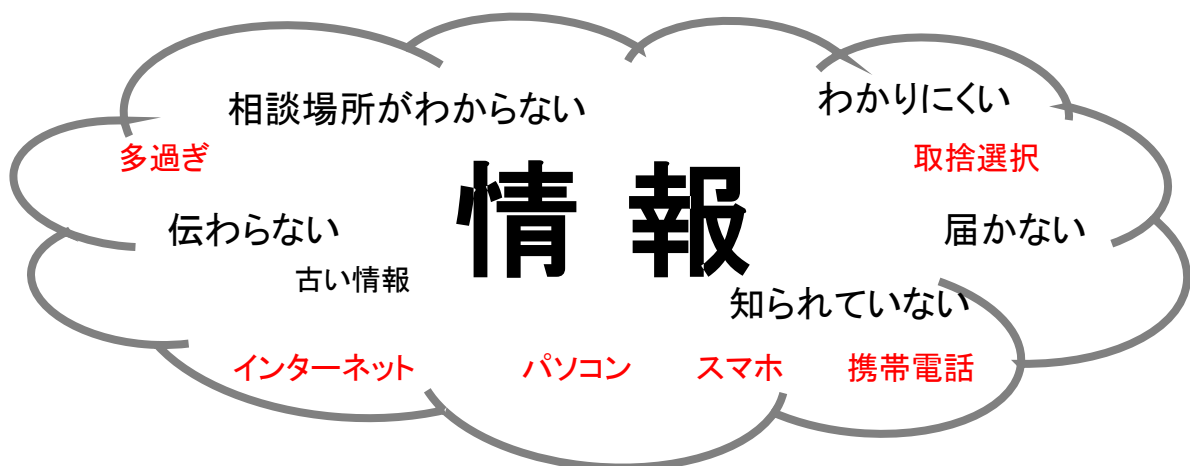
情報が必要な人に伝わっていない

(情報) こんな声がありました！



- 町内会としては、町内行事へ参加してもらえよう情報を伝える工夫はしているが、なかなかうまく伝わらず、参加しない人はいつも参加しない。
- 地区社協自体が地域に知られていない。地区社協が地区内で開催している行事の多くは、行政や町内会・自治会が開催しているものと思っている住民も多い。
- 困ったときに、とりあえずどこかへ相談できる人には対応できるが、どこに相談すればいいかわからず、声をあげることができないでいる人への対応が必要である。
- 行政による福祉サービスの対象者には、制度導入時などに行政から直接的にチラシまたは広報紙などで周知されるが、制度導入から月日が経つとなかなか情報が伝わりにくい状況がある。
- 行政による福祉サービスは、対象や種類が多岐にわたるため、把握し理解することが難しいものもあり、サービスがあること自体を知らずに不自由を感じている人がいると思われる。

課題キーワード





〈取り組み目標〉

自分にあった情報を得て役立てよう

今や情報は、選ぶのに困ってしまうほど無数にあり、情報が多ければ多いほど、本当に必要な情報がどこにあるのかわからなくなることがあります。日々の暮らしに必要なこと、知っておくと便利な情報は、町内会・自治会をはじめとした地域のさまざまな団体や、行政など、身近なところから発信されています。情報を得ることが難しい人には、自分が得た情報を教えてあげるなどしていくことが大切です。

〈個別目標〉



わたしたちができること

- ① 口コミや地域の掲示板のほか、各種広報紙、ホームページなど、さまざまな手段を活用して、自分たちから積極的に必要な情報を集め、活かしていこう
- ② 有益な情報を見つけたら、自分から周りに伝えていこう

市社協の取り組み方向

☆わたしたちに必要な情報が
必要な時にいつでも得る
ことのできる仕組みづくり

福祉施設・関係機関ができること

- ① 地域に福祉施設・関係機関の役割や機能、専門性を伝えていこう
- ② 広報紙、ホームページのほか口コミや地域の掲示板など、さまざまな広報手段を活用しよう



いますぐあなたのまちでも！ 活動ヒント集

○自分の住んでいる町内会・自治会がどのような役割をもってどのようなことに取り組んでいるのかわからない住民が多いため、活動報告をつくって回覧するようにしている。

○回覧板は読まれないことも多いが、町内の掲示板は通る度に目に入るため、広報には欠かせない。

○防犯パトロールの際に、子どもたちに行事のチラシを配布して呼びかけている。

○情報発信で大切なのは、情報を必要とする人が到達できるアクセシビリティ(使いやすさ)。
バナー(見出し)を付けて、すぐ情報に到達できるようにするなど、使いやすくする必要がある。

○地域のおせっかい好きな人になって、話したり、教えたり、誘ったりすることが大事。



〈取り組み課題〉

一人ひとりの参加による地域福祉の推進

～ 代表的な地域の現状・抱える課題 ～

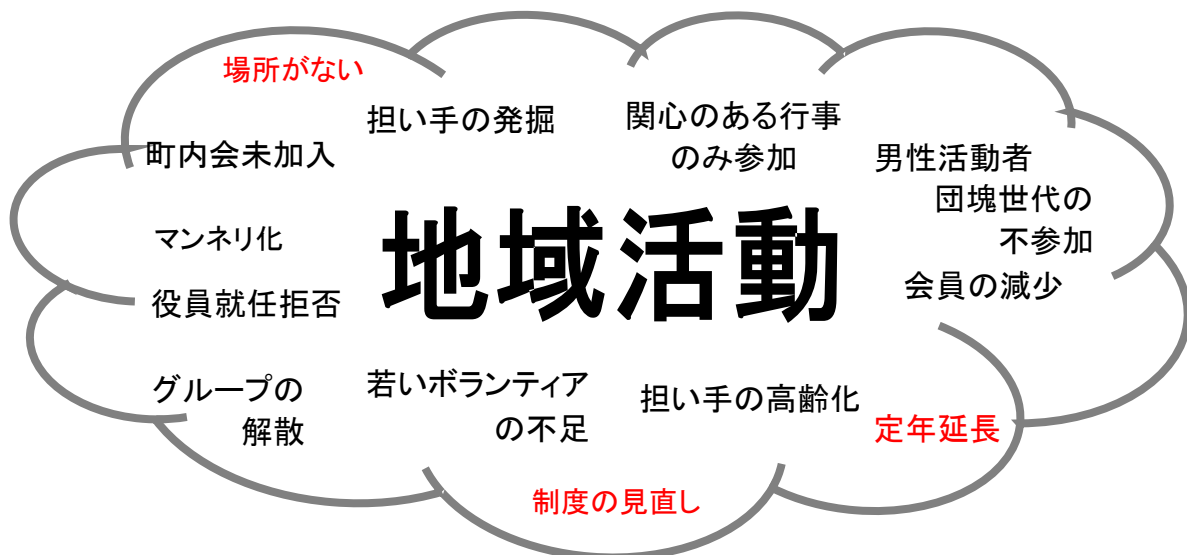
地域福祉活動に携わる人や活動内容が固定・減少している

(地域活動) こんな声がありました！



- 団塊の世代が高齢者といわれる年齢になってきているが、全国的に老人クラブの数・会員数が減少している。老人とされることを嫌う人も多く、高齢者の意識が変わってきている。
- 昔は60歳の定年退職後に地域活動に参加していたが、今は65歳まで定年延長となった。年齢が高くなると、地域活動やボランティア活動に参加しづらくなり、担い手不足は深刻になる。
- 地域活動の担い手がおらず、人が固定化し、活動もマンネリ化しがちである。
- 福祉施設で活動するボランティアグループには、活動年数の長いところが多く、高齢化して活動の継続が困難になって、解散する例がある。
- 介護・看護人材が不足しており、確保と定着が課題。福祉施設と地域が継続的な信頼関係を維持していくために、各施設だけでなく、広く地域の課題としてみんなで考えていけるとよい。
- 町内会に入っていないことを理由に、例えばゴミ置き場の利用や行事への参加を断ることはできない。市からの配布物は未加入世帯にも配布しているが、町内会への理解が得られない。

課題キーワード





〈取り組み目標〉

身近な地域の福祉活動を進めていこう

地域の活動やボランティア活動に限らず、各福祉の現場においても担い手不足は深刻さを増しています。町内会・自治会をはじめ、さまざまな活動団体の多くは、メンバーや活動内容が固定化し、負担が重くなってきているという悩みを抱えています。日頃から、普段の活動紹介はもちろん、魅力をPRし、一人ひとりが「スカウトマン」になって、仲間を増やしていく必要があります。

〈個別目標〉

わたしたちができること



- ① あらゆる地域住民が参加できるような行事や活動を企画し、働きかけをしていこう
- ② 特技や趣味活動など、誰もが気軽に地域福祉活動へ参加できるきっかけをつくっていこう
- ③ 行事・催しの参加者にも活動の手伝いをお願いしてみよう

市社協の取り組み方向

- ☆各地区社協における地域福祉活動計画の策定
- ☆各地区社協の活動の充実・強化に向けた検討

福祉施設・関係機関ができること

- ① 施設と地域が一体となって、地域の行事や活動に協力したり、自らも企画・実施してみよう
- ② 地域住民が主体的に福祉活動に取り組むことができるよう支援しよう



いますぐあなたのまちでも！ 活動ヒント集

○地域福祉活動は、義務感や負担感ではなく、自分たちの手で「住みやすいまちをつくっている」という気持ちをもって行う、楽しく、充実感のある活動という意識の持ち方が大事。

○参加者も担い手という、ふらっと立ち寄れるお茶のみサロンを企画した。

○子育てサロンを開催する場所が無かったので、住宅展示場のモデルハウスにが使えないか、企業にお願いしたところ、快く、無料で場所を貸してくれた。企業側も一番家の購入を考える層に体験してもらえる。

○親子サロンの参加者の中から、子どもが大きくなったので、サロンを手伝いたいという声があった。

○自主財源確保のため、福祉バザーやキャラクターの焼印入りお菓子の販売を行っている。



〈取り組み課題〉

さまざまな支援活動・方法の模索

～ 代表的な地域の現状・抱える課題 ～

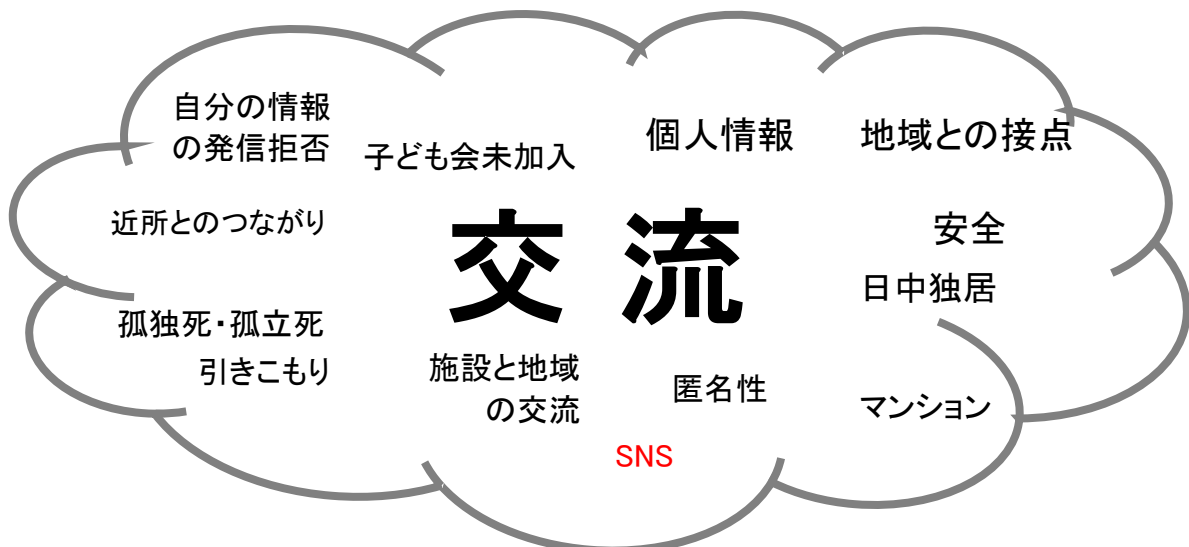
自分のことを知られたくない人、
自分に関する情報を提供されたくない人からの SOS が気づきにくい

(交流) こんな声がありました!



- サロンや行事には、引きこもりがちの本当に出てきて欲しい人は、なかなか出てこない。
- 見守り活動をして、数日前まで元気だった一人暮らし高齢者が、急に亡くなっていた。
- 隣近所と関わりを持たず、身寄りのない一人暮らし高齢者等が増え、死亡しても長い間発見されなかったり、地域の方がご遺体の扱いや財産整理に苦慮したりする状況がある。
- マンションはオートロックで住民以外は中に入れないため、支援者として居住する高齢者の様子を聞きたくても聞けない。
- 支援者として、相手の情報を知っていることについて、本当は知られたくないのではないかと不安に思うことがある。
- 個人情報保護の名のもとに、特に官公署で保有する情報の入手が大変困難になってきている。
- 福祉施設が地域の一員として、日ごろから地域住民との関わりを高めながら、利用者を理解してもらい、災害発生時の避難路確保や利用者の安全のための支援体制作りをしていく必要がある。

課題キーワード





〈取り組み目標〉

さまざまな人たちを支援できる活動を 進めていこう

人とのつながりをわずらわしく感じたり、きっかけがないという人もいます。地域福祉活動関係者・団体は、住民が孤立しないよう、サロンや行事を開催したり、日頃の見守り活動をしています。専門性をもつ福祉施設・関係機関とも、協働・連携し、支援することが求められています。

〈個別目標〉



わたしたちができること

- ① 日ごろのあいさつや声掛けなどをおして、困ったときに頼みやすい雰囲気や関係をつくっていこう
- ② 困ったときに身近に相談できる人・場所などの情報を、日ごろからわかりやすく地域へ伝えていこう

市社協の取り組み方向

☆人や地域とのさまざまなつながり方に合った支援活動・方法の検討

福祉施設・関係機関ができること

- ① 日ごろから地域住民や活動者・団体とお互いに相談しやすい関係をつくっていこう
- ② 困ったときに身近に相談できる場所として、日ごろから施設・機関の情報をわかりやすく地域へ伝えていこう



いますぐあなたのまちでも！ 活動ヒント集

- 広報紙の配達や、募金活動も、見守り活動の一環として実施している地区がある。
- サロンのチラシを、高齢者が集まる医院や整骨院に置いたところ、誘い合わせて来てくれるようになった。
- 行事の際、外に出たがらない高齢者の家へ、誘いに迎えにいき、一緒に参加する仕組みがある。
- 地域で徘徊高齢者がでて、見守りチームを作ろうとなった際、SNS でグループをつくったところ、スピード感をもって結成でき、活動ができた。また若い人たちの協力も得られた。
- 町内会館の2階へは、高齢者は普段上がりたがらないが、カラオケの時は、我先にと上がっていく。
- 町内会館等を使った、地域の同好会活動が活発化している。
- 登校時の見守り活動では、できるだけ名前を聞いて名前で呼んであげると、よく反応してくれる。
- 行政等のサービスと住民をつなぐことが、民生委員児童委員の役割の一つだが、利用できる状況でも断る人については、無理強いせずに、外側から見守りながら、時間をかけて関わるようにしている。



〈取り組み課題〉

地域福祉や関連領域関係者・団体の協働・連携

～ 代表的な地域の現状・抱える課題 ～

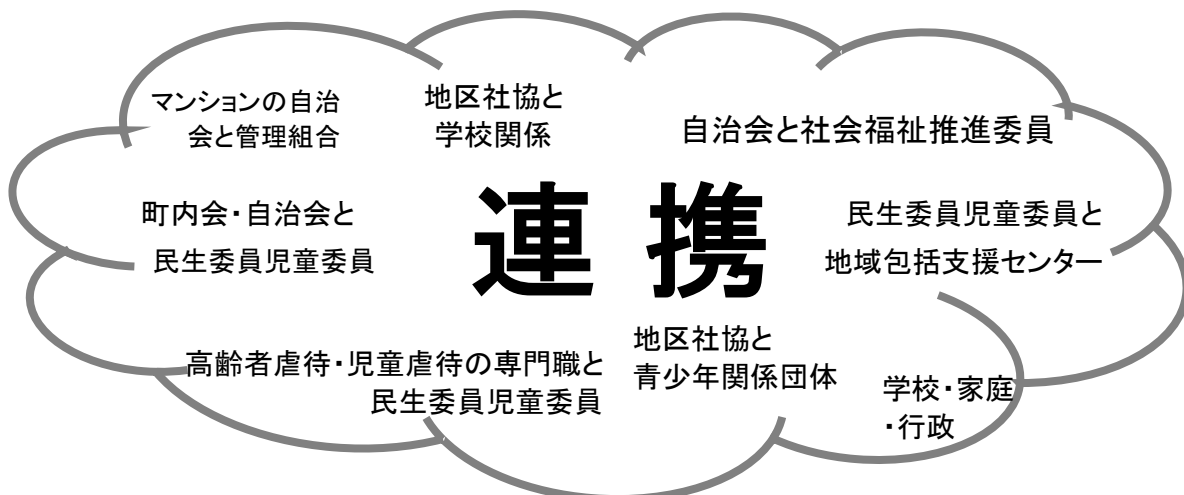
地域の中では、地域福祉活動に携わる人・団体が連携しなければ解決が難しいほど、複雑・深刻な課題を抱える人も生活している



(連携) こんな声がありました！

- 地域福祉を円滑に進めるためには、町内会の協力が不可欠である。
- マンションでは、自治会と管理組合が一緒になって考えていかないと地域福祉は進まない。
- 子どもの生活様式や考え方、価値観などが多様化・複雑化し、さまざまな問題が発生して、学校はその対応に追われている。学校・家庭・地域・行政の効果的な連携が必要だと感じる。
- 地区社協としては、体育振興会、青少年育成推進員、母親クラブのほか、学校評議員などの学校関係との接点が少ないと感じる。
- 独居高齢者、虚弱高齢者世帯、障害者の実態調査把握は民生委員児童委員が一手に担っているが限界がある。町内会・自治会と情報共有化のための連携が必要である。
- 地域の高齢者からの相談やニーズが深刻、複雑になっており、民生委員児童委員だけでは受け止められず、地域包括支援センターなどにつながないと対応できない相談も増えている。
- 高齢者虐待、児童虐待が増加している。専門職と担当民生委員児童委員との連携が必要。

課題キーワード





〈取り組み目標〉

さまざまな機関・団体・個人が協働して、
大きな力を生み出していこう

地域で暮らしている住民が抱える悩みや困りごとの中には、複数の支援を組み合わせなければ解決できないものがあります。さまざまな機関・団体・個人が単独で活動するだけでなく、相互につながり、協働していくことによって、課題を解決していくことが必要です。さまざまな社会資源に活動の輪へ加わってもらい、大きな力を生み出していくことが期待されています。

〈個別目標〉



わたしたちができること

- ① 地域内のさまざまな福祉関係団体と協力し合おう
- ② 地域内のさまざまな団体や地元商店、企業、学校、福祉施設・関係機関、個人など地域資源同士がお互いの得意分野を持ち寄って協力していこう

福祉施設・関係機関ができること

- ① 地域内のさまざまな個人、団体や地元商店、企業、学校、福祉施設・関係機関など地域資源同士がお互いの得意分野を持ち寄って協力していこう
- ② 保健福祉大学など、横須賀らしい地域資源と共に協力できる関係をつくっていこう

市社協の取り組み方向

☆地域福祉の推進に
向けたさまざまな
地域資源の協働の検討



いますぐあなたのまちでも！ 活動ヒント集

○民生委員児童委員からの依頼で社会福祉推進委員と自治会が高齢者宅の見守り訪問を実施しており、訪問を通じて関係者の連携と高齢者世帯との信頼関係が築かれるようになった。

○地域包括支援センターでは、包括的ケア会議をとおして、地域の町内会や民生委員児童委員、社会福祉推進委員、事業者との接点をもつことができた。

○ふれあいサロンでは、ゲームなどを行う際に他の地域の人をお願いすることがあるが、できるだけ地元の福祉施設などの協力を得て実施するようになりたい。

○地域住民など周囲の人が障害者を支援する場合、無理に生活に介入せず、あいさつや声掛けなどで見守りながら、相談機関や保健所などと連携して接していけるとよい。

5. 計画推進の考え方

★さあ、計画づくりをはじめましょう

この計画書は、地域福祉活動計画の完成形ではありません。

ふだんの暮らしのなかで

「最近、地域で、こんなことが問題」

「こんな話を良く聞く」「困った」といったことを教えてください。

地域の課題に対して、

「こんな取り組みや、活動をしたら、うまくいった」

「うまくいかなかった」といったことを教えてください。

「あその地区は、こんなことしているらしいよ」「じゃあ、うちの地区では、こんなことしたらどう？」

この地域福祉活動計画は、自分のまちの地域福祉について、みんなで考えるきっかけです。

横須賀市内の、課題や取り組みを共有し、参考にしながら、地域福祉活動を広めるお手伝いをし、つねに、ご意見を取り込んで進化し続ける、みなさんと一緒につくり続ける計画です。

ふ	だんの
く	らしの
し	あわせ



* 横須賀市による支援(未稿)

横須賀市は、総合計画(基本構想、基本計画、実施計画)や「よこすか高齢者保健福祉計画」などの分野別計画に基づき、総合的な地域福祉サービスを提供しています。

しかし、地域の中で複雑化、多様化する福祉ニーズを解決するためには、「自助」(自らの努力)、「共助」(地域住民同士の助け合い)、「公助」(行政の公的なサービス)の一つひとつが、これまで以上に欠くことのできないものになっています。

そのような状況から、地域住民や福祉施設、関係機関などが主体的に進めていく地域福祉の取り組みや活動についてまとめた「地域福祉活動計画」の推進を支援してきました。

今後も、横須賀市は、住民同士の助け合い活動の輪が広がっていくよう直接的に働きかけたり、支援したりするとともに、新たに策定した「横須賀市社会福祉協議会 第5次地域福祉活動計画」の推進についても引き続き支援していきます。



★市社協の運営基盤を強化

地域福祉活動計画と同時策定した

「横須賀市社会福祉協議会発展強化計画」を参照

平成 30(2018)年 3 月
横須賀市社会福祉協議会 第5次地域福祉活動計画
～ “よこすかの福祉をハッピーに、するための活動マニュアル”～



社会福祉法人横須賀市社会福祉協議会

〒238-0041 神奈川県横須賀市本町 2-1

市立総合福祉会館内

TEL 046-821-1301 FAX 046-827-0264

E-mail shakyo@wg7.so-net.ne.jp

URL <http://www.yokosuka-shakyo.or.jp/shakyo/>

社会福祉協議会(社協)は、社会福祉法に「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」と定められています。地域の住民組織、福祉・保健・医療・教育などの関係機関・団体の参加と協働により、地域福祉を進めていくために、さまざまな活動に取り組んでいます。